

本取組の背景・目的

- ・ **加入者の声から判明した課題**：当健保で実施した加入者へのインタビュー¹によると、コロナ禍における医療機関受診に苦慮している加入者が多く存在し、医療機関への受診やOTC医薬品の活用方法など、「上手な医療のかかり方」を加入者に普及・浸透させていく必要性が顕在化してきた

1:委託業者の協力を得て当健保組合加入者約50名に実施

- ・ **レセプト分析から判明した課題**：当健保の医療費の特徴として、軽度な症状の疾患にかかる医療費の割合が比較的大きいこともあり、早期発見・重症化予防と同様に軽度な症状の疾患の医薬品費適正化も喫緊の課題である



上記の課題認識のもと、「上手な医療のかかり方」を普及・啓発することによる「加入者の健康の維持増進」および「医療費の適正化」の両立を目的とし、本取組を実施する

(加入者からの実際の声)



40代男性

市販薬よりも**処方薬**が効き目が強いというイメージがあり、通院しているが、最近**はコロナ感染も心配で悩んでいる。**



20代女性

花粉の時期は鼻水が辛いけれど、一時期だけなので、**通院や服薬をせず、ずっと我慢している。**



50代女性

他の薬と飲み合わせが大丈夫か等、薬の情報を分かりやすく教えて貰えたら自分に合った薬を選択できると思うが、**気軽に相談できる機会がない。**

本取組の内容

「上手な医療のかかり方」の一環として、セルフケア・セルフメディケーションに関する普及啓発活動から実践支援までを一貫して行うことで、加入者の行動変容を後押しする仕組みを構築

セルフケア・セルフメディケーション普及啓発活動

セミナー開催

セルフケア・セルフメディケーションに関するセミナーを開催。社内のポータルサイトなどを活用した広報活動を実施

個別勧奨通知送付

医師・薬剤師と連携のうえ、レセプトデータからスイッチOTCの活用可能性がある患者を抽出し、セルフケア・セルフメディケーションに関するリーフレットを各自宅へ郵送

※本年度は、アレルギー性疾患及び皮膚疾患において、並存病名や薬剤処方の有無等を考慮し対象者を抽出する

セルフケア・セルフメディケーション実践支援

サポート体制

症状に応じた受診勧奨や市販薬への切り替え時の注意点などの**薬選び全般**に関して**薬剤師へ相談できる機会を提供**

ECサイト・ヘルスケアポイント

ECサイトを活用し、同サイトで使用出来る**ヘルスケアポイントを提供すること**で加入者のセルフケア・セルフメディケーションに対する**インセンティブを提供**

取組終了後の効果検証（現時点で想定する検証項目の例）

定性・定量の両面で効果を検証することにより、加入者の意識・行動およびセルフケア・セルフメディケーションの受容度を測定し、次年度以降の取り組みに反映

（※医療費適正化効果および薬剤師への相談回数については成果連動型報酬の指標として使用）

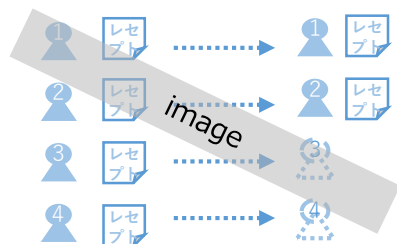
測定
項目

行動変容への影響

使用
データ

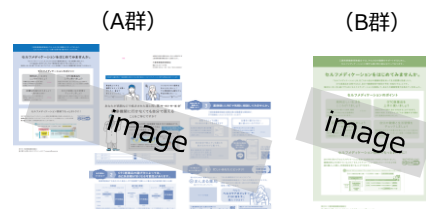
当健保のレセプトデータ

2018-2020年度及び今年度のレセプトを比較し、医療費適正化効果及び受診パターンの変化を検証



個別勧奨通知の効果

対象者をランダムに2群に分類、記載内容が異なる2種類のリーフレットを送り分けることで訴求内容の違いによる行動変容の差を検証



加入者の意識の変化

意識調査アンケート結果

取組前後でのセルフケア・セルフメディケーションの受容度（理解・実践）を検証

事前アンケートによるセルフケア・セルフメディケーションへの障害（例）

- セルメ・スイッチOTCのことを知らない
- 薬選びの自己判断が不安
- 保険適用の方が安い？

取組後のアンケートにより、回答の変化を測定

セルフケア実践への影響

薬剤師への相談数・内容

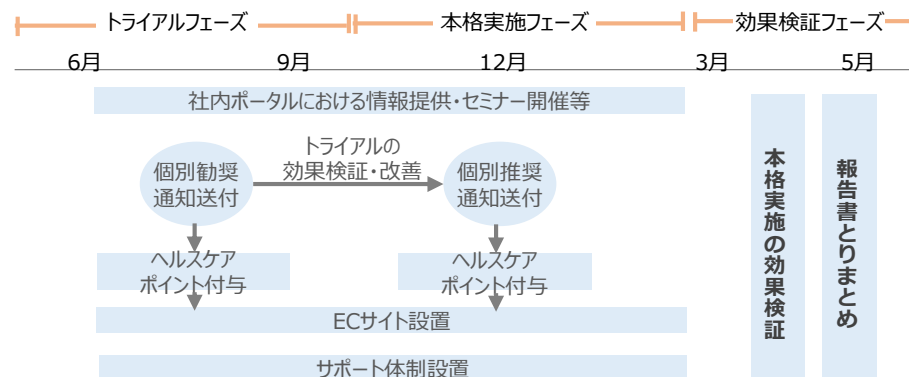
セルフケア・セルフメディケーションの受容度について、薬剤師への相談回数の推移や相談内容から検証

（相談内容の例）

- 医療機関への受診勧奨
 - この症状なら病院に行くべきでは？
 - 症状が続く場合は？
- 情報提供
 - 処方薬と同一成分の市販薬はあるか？
 - 飲み合わせで気をつけることは？

実施スケジュール（実施期間：2021年6月～2022年5月）

2021年度上半期をトライアル期間、下半期を本格実施期間とし、年度の途中で振り返りを行うことでPDCAを回す



推進体制

当健保・委託業者が一体となって推進。また、委託業者を通じて、薬局とも提携し、セルフケア・セルフメディケーションに関して加入者が相談することが出来る体制を整える

